

[長崎県病院企業団通信]



ふくよか

2019冬号

■長崎県病院企業団本部
■平成31年1月発行

新年初神楽
受付中

謹賀新年

目次 CONTENTS

P2…企業長より

縮小の時代を生き抜く知恵と勇気

P7…郷診郷創

国保受療動向

P4…特集①

中堅職員研修、看護部長会議、
へき地・離島救急医療学会学術集会

P8…Break Time

島の人口減少と外国人

P6…特集②

平成30年度上半期医業収入の状況

vol.
18

平成三十一年 年頭所感

縮小の時代を生き抜く知恵と勇氣

企業長 米倉 正大



あけましておめでとうございます。

今年、平成最後の年で、5月からは新しい年号に変わりお正月に加え1年で2度のスタートをする記念すべき年になります。

この10年、医療界では、2025年問題に向けて医療改革の大きな波が押し寄せ、これまで続いてきた多くのシステムがリニューアルされました。DPC制度の導入による各病院の診療の数値化の定着、地域医療構想に伴う病床機能別調整、地域学生への創設、医師の働き方改革、新専門医制度への移行、介護医療院の創設、臨床研修医修練施設制度等の権限の各県への移譲など数えればきりがありません。私たちにとっては、国の第一次公的病院改革に沿って、県立病院と離島医療圏組合の病院が統合され、長崎県病院企業団として歩み始めた10年間でした。

振り返ってみますと、病院企業団として、それぞれ別組織だった11の病院が、同

じ団体として各離島に拠点病院が配置され、職員の意識改革をはじめ、医療の質の向上を目指してきました。また、電子カルテシステムが全拠点病院に配置され、それぞれの病院がDPC参加病院となり、自分の病院の立ち位置を再認識する体制も整いました。さらに医療の質の改善のため、新人研修、中堅研修などのほか、これまでなかった副院長会議や副看護部長会議なども開かれ、各病院での情報共有ができてきたのではないかと思います。

一方で、病院経営は非常に難しい段階を迎えています。人口減少からの患者数減、急性期病床の平均在院日数の短縮に伴う病床利用率の低下などによる収益の減少に対し、人件費や経費の増加など、かかる費用は増加の一途をたどっております。大病院による患者誘導システムの充実なども加わり、へき地・離島で頑張っている企業団病院においては、どれもが大きな逆風となっており、近年では3年間の赤字が続いています。

しかし、この状況を嘆いても問題は解決しません。昨年、地域医療研究会の基調講演で話しましたが、「縮小の時代を生き抜く知恵と勇氣」をもってこの難局を切り抜けていきたいと考えています。今、みなさんに取り組んでもらっている「郷診郷創」による患者確保のほか、より一層の病棟再編などまだまだ取り組まなければならない課題はたくさんあります。職員の方々が、誇りを持てる病院づくりをモットーに知恵と少しの勇氣を持って、新しい年を乗り切っていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

さて今、日本は、これまでどの国も経験したことのないほど速いスピードで高齢化社会に突入しようとしています。これをうまく切り抜けるか、世界中が固唾をのんで見守っています。その点、長崎県の離島の人口構成は、本土の10年先を走っており、言ってみれば、日本中が離島の高齢化の行く末を、固唾をのんで見ているのかもしれない。以前、離島やへき地の人口減少や急激な高齢化は、日本人の精神構造に

よる要因が大きいことを述べました。昨年3月長崎県の離島の高校を卒業した生徒数は912名で、この中の825名が進学や就職で長崎県外に出ています。90%以上です。中学卒業で離島を離れた学生数を加えると95%以上になるのではと言われています。このうち何名が、離島にUターンするのでしょうか。今年、高校を卒業した彼らが10年後に、子供を産み育てる年齢になることを思うと、ますます離島の高齢化に拍車がかかることは間違いありません。今の若者が、文化度の高いところに自分の幸福があるという思いを持っていくことの責任の一端は、現代社会を形作った我々にもあることは確かです。この精神構造が是正されない限り、日本の地方の人口減少と急速な高齢化の傾向を止めることは難しいと思います。

全く違った見方で、100年前を考えると、飛行機をはじめ交通機関の発達で世界は非常に狭くなりました。近い将来エネルギー問題が解決し、今より便利な乗り物、例えば空飛ぶ自動車など、また交通機関や搬送手段としてのドローンが発達し、都会から遠く離れている離島やへき地へ苦痛を感じず短時間で手軽に行き来できるようになれば、今離島やへき地を抱えている諸問題が、すべて解決できるかもしれません。島の活性化につながるのです。

本部職員のつぶやき⑥

「神社での作法」

総務人事班 高村 純華

新年あけましておめでとうございます。

みなさん、神社へ初詣には行きましたか？お正月やいろいろな祈願で参拝する機会も多い神社。今回は改めて参拝の作法を調べてみました。

まず鳥居の前で一礼。神社へのお邪魔します、の意味で頭を下げるそうです。それから参道は真ん中を避けて進み、参道を横切の場合は真ん中で頭を下げて通ります。参道の真ん中は真中と言って神様の通り道なのだから。

それから手水舎で手と口を洗います。手水舎の前で一礼、右手で柄杓を取り左手を清め、左手に持ち替え右手を清めます。右手に持ち替え左手に水を注ぎ口をすすいで、左手をもう一度清めます。最後に両手で柄杓を持ち、手前に水を落として持ち手の部分を清め、一礼して手水舎を出ます。清めるだけでもたくさん作法があり驚きです。

そこから拝殿へ進み、まず45度の礼をしてお賽銭をいれます。余談ですが私は後ろの方が投げたお賽銭が頭に当たったことがあります。正月早々運がいいのか悪いのか…。お賽銭をいれた後鈴を鳴らし、二礼二拍手一礼。このときの礼はすべて90度です。その後45度の礼の後拝殿を離れます。そして来た時と同じように参道の真ん中を避けて歩き、最後に鳥居に一礼します。

改めて調べてみるといろいろとルールがありますが、失礼がない方がご利益がありそうな気がしますね。今年は元号も変わりいろいろと節目の年になりそうです。健康に気を付けて、良い1年にしていきたいと思います。

中堅職員研修 in i+Land nagasaki

H30.11.12 - 11.13



今回のテーマ『病院経営の安定化に向けて 中堅職員として何ができるか?』



DAY.1

中堅職員同士の連帯感を高めつつ、病院企業団を取り巻く現状を再認識

○ コミュニケーションゲーム



↑自己紹介の後、グループ対抗でのミニゲームで親睦を深めました。

○ 米倉企業長による講話



←主な内容は、脳におけるデフォルトモードネットワーク(DMN)のはたらきについて。離島のとある看護師の実例を紹介したうえで、DMNが発達している人はとっさのひらめきやアイデアが豊富である、とのお話をされました。



↑夜には、意見交換会も!

○ 講演「病院企業団の現況・台所事情」



←講師は安永副企業長。病院企業団の経営状況や離島の人口推移など、現場の職員が普段なかなか意識することのないデータをもとに講演されました。



DAY.2

今回のテーマに基づき、グループごとのワークショップ

○ 話し合い



○ 発表の準備



○ 発表



各グループが趣向をこらした、個性豊かな発表が行われました。

○ 記念撮影



参加されたみなさん、
2日間の研修お疲れ様でした!

看護部長会議兼研修会 in 島原

H30.11.1 - 11.2



◎ 目的

- 1) 看護管理者として職務遂行上必要な看護管理の実践を学び、質の高い看護ケアの提供、人材育成、やりがいある職場づくりを推進する。
- 2) 自施設における看護管理および病院経営上求められる自己の役割や課題を明確にする。
- 3) 企業団病院間の連携を図り、看護の動向や業務改善等の情報交換・情報共有の場とする。

○ 看護部長会議の様子



↑ 看護師長教育の企画、働き方改革や研修会の参加などについて、各病院間で協議・情報共有を行いました。

○ 講演「島原(医療)の現況と展望」



↑ 島原病院の徳永病院長よりご講演をいただきました。



↑ スケジュールには、島原病院内の見学も盛り込まれました。

○ 「普賢岳噴火災害体験を通じて」



← 島原病院の溝田副院長より「災害と看護管理」と題して噴火当時の救護活動からの学びなどご講演をいただき、改めて危機管理の重要性を学びました。
この他にも院内の災害用設備、災害記念館、土石流被災家屋公園などを視察しました。

○ 記念撮影(平成新山を背にして)



第22回へき地・離島救急医療学会学術集会

H30.10.27

『地域医療を語ろう』

長崎大学病院の高山隼人会長主催による本学会は、より良い地域医療の実現を目指したものです。
今回は、企業団の職員を含む81名の参加者が集まり、テーマ「地域医療を語ろう」に基づく特別講演やシンポジウムが行われました。
また、診療看護師や地域卒医学生も含めて32題の発表があり、へき地・離島医療の実態、救急搬送の課題などのディスカッションも白熱しました。



↑ 長崎大学医学部の良順会館にて開催され、へき地や離島の医療に携わる方々が全国から集まりました。

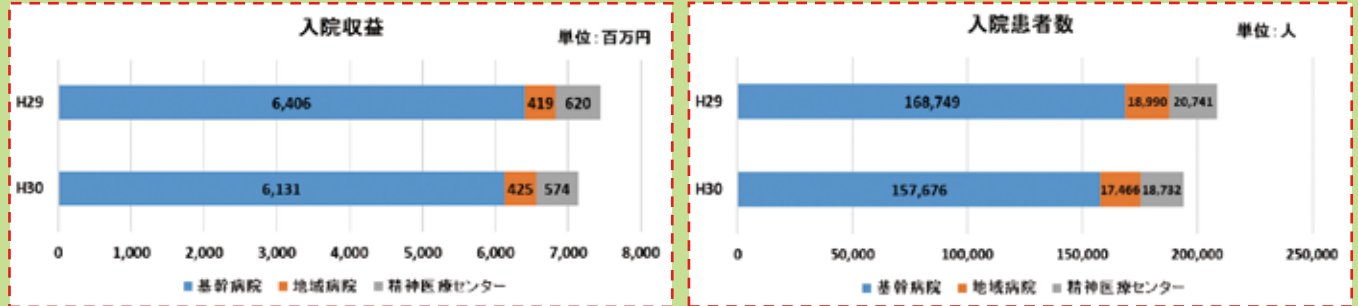




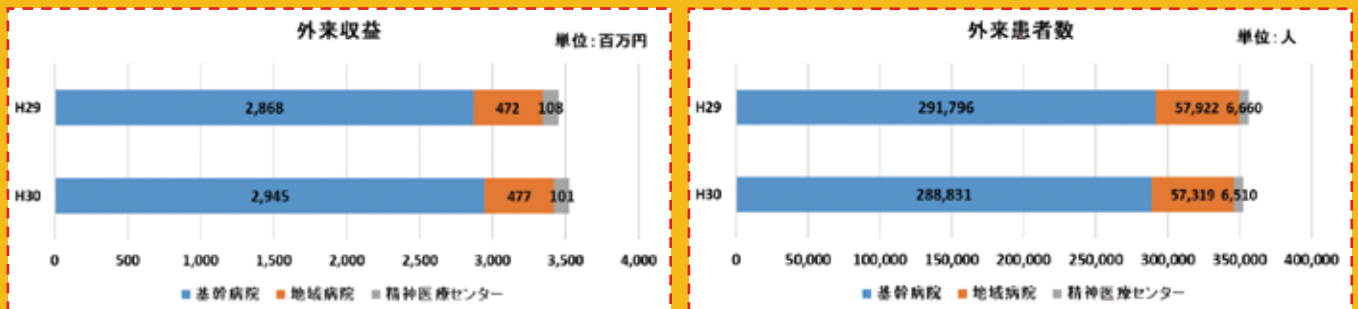
～平成30年度上半期医業収入の状況～

医業収入の大半を占める入院・外来収益の平成30年度上半期の状況は以下のとおりです。

<入院> 特に基幹病院において患者数の減少が大きく、収益も昨年度の上半期から約2億7,500万円減少しています。



<外来> 患者数の減少はあっているものの、診療単価が増加していることから、収益は昨年度の上半期から約7,500万円増加しています。



企業団全体では、昨年度と比較して入院収益で▲3億2,000万円(▲4.2%)、外来収益で+7,500万円(+2.1%)となっています。入院、外来ともに患者1人1日当たりの診療単価は平成29年度と比較して増加しておりますが患者数の減少が医業収益の減少につながっています。



精神医療センター 岸川・山口看護師が 人命救助で感謝状を贈呈されました！！



この度、心肺停止状態となった傷病者に対し、適切な救助処置により救命したとして諫早消防署より精神医療センターの職員2名に感謝状が贈呈されました。

平成30年11月中旬、ジョギング中の男性が突然倒れたのを、2人の職員が目撃し、救命処置と119番通報を行い病院へ搬送しました。男性は搬送先の病院で治療を受け後遺症もなく退院され職場復帰されました。

感謝状は、2名の副看護師長が勇気を持って救命に携わり、男性の社会復帰に大きく貢献されたことに対し贈呈されました。



(左:岸川副看護師長、右:山口副看護師長)

各離島における国民健康保険加入者がどれくらい島外医療機関で受診しているのでしょうか？

平成30年4月～8月の期間で医療費ベースと件数ベースで調べてみました！！

郷診郷創では、医療費ベースで島外受診の20%を島内受診へ回帰する事を目標にしています。

【昨年同時期と比較】 **医療費ベース**：対馬市・壱岐市が島内の割合が**増加**しています。

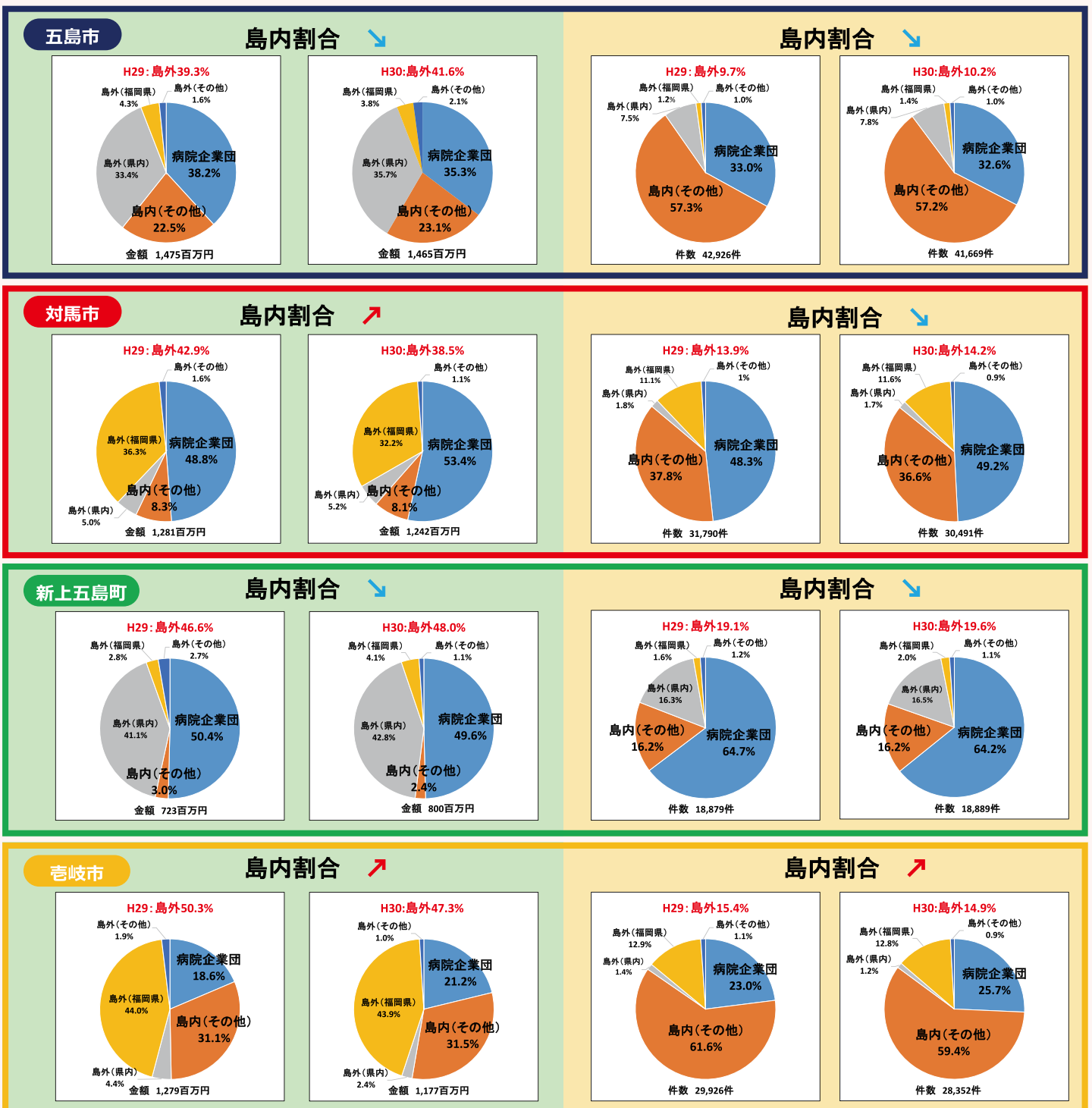
件数ベース：壱岐市の島内割合が**増加**しています。

島外で受診する事は、本人の自己負担額だけでなく、医療費全額が島外に流れてしまいますので島内で治療可能なものは島内の医療機関で受診しましょう。



医療費ベース 入院+外来

件数ベース 入院+外来



Break Time : 「島の人口減少と外国人」

島では、少子化の影響もあり、そこに暮らす若者の数は年々減って、まちの活力衰退や労働力の確保が課題になっています。島に住む人を増やすために、どのような取り組みが効果的でしょうか。

国は、平成29年11月から外国人技能実習制度に介護職を追加するとともに、入国管理法を改正して外国人労働者の受け入れ拡大を図ろうとしています。

遠い昔の記憶をたどると、私が中学生の頃、近所に住んでいたお兄さん（外国航路の船員さんで時々島に帰ってきていた）の奥さんは南米出身の外国の人でした。当時は物珍しく家の前を通るたびに覗き見していたような気がします。ほかにも農家の親戚の家に遊びに行ったときにも近所でフィリピンらしき女の人を見かけることもありました。意外と島では外国の人との交流は昔からあったのかもしれない。

看護職員の確保に苦勞している上五島病院では、外国人技能実習制度を活用して、看護職の業務負担軽減等を目的として、今年の3月にミャンマーから介護実習生を受け入れる予定にしています。これがうまくいけば、第二陣、第三陣と続いていくでしょうし、他の離島病院にも拡大することが期待できます。

一方、五島市では日本語学校の設立が計画され、過日の新聞報道では協定書を締結し、具体的な動きが本格化してきました。先行している奄美大島の事例では、日本語学校に入校した外国人留学生が、地元の居酒屋などでアルバイト（週28時間まで可能）をするなど、留学生の労働力が島では欠かせないものになっているとのこと。留学生と地元住民との交流がもっと進んで、将来そのまま離島に定住してくれば人口減の対策にもなるのではと思います。そういう意味では、技能実習生よりはむしろ日本語学校のほうが離島には向いているのではないかと考えます。

まちの活性化には、若者の力が不可欠です。多くの外国人留学生が離島の日本語学校に集まることで、人口減少の歯止めと地域の活性化に繋がるかもしれないし、人が増えることで地元に残る若者が増えるかもしれません。そんなことを最近考えています。

皆さんの周りに外国の方がいたら、地方（島）に来て寂しい思いをしているかもしれませんので、どうか優しく接してあげてください。

（文：副企業長 安永 留隆）

編集後記

あけましておめでとうございます。
今年の干支の猪は無病息災を意味するのだそうです。
お正月に食べ過ぎていませんか？ 適度に運動していますか？ そんな私も運動不足、食べるの大好き。暖かくなったらウォーキングでも始めたいです。

（ふくよか編集担当：K）

ふくよか

表紙のはなし
「諏訪神社の御朱印帳」
長崎市民に親しまれ、「おすわさん」と呼ばれている諏訪神社は、初詣、お宮参り、おくんちと、長崎の生活に密着した大切な神社です。10月にはおくんち限定御朱印帳が配布されます。

平成31年1月発行
編集・発行 / 長崎県病院企業団本部
〒850-0035 長崎市元船町17-1 長崎県大波止ビル7階
TEL.095-825-2255 FAX.095-828-4759
E-mail : honbu@nagasaki-hosp-agency.or.jp
URL : <http://www.nagasaki-hosp-agency.or.jp/>
上記メールアドレスに記事についてのご意見・ご感想を
どんどんお寄せください！



長崎県病院企業団

検索